議題4　高次脳機能障がいの普及啓発の方向性について

資料4

- 広く府民に普及啓発を図ることで、自分や家族の身に起きた時の対応について知ることができ、その結果、適切な支援機関により早くつながることができると考えられる。

1. これまでの取組み

時期	会場	内容
令和2年2月9日(日) 午前10時から午後4時まで	イオンモール大日(守口市)	・ハンドベル演奏会 ・もずやんとの撮影会 ・相談ブース ・工作コーナー ・ミニクイズ ・リーフレット配布
令和3年7月10日(土) 午後1時から午後4時まで	イオンモール北花田(堺市)	・パネル展示 ・事業所の作品展示 ・相談ブース ・ミニクイズ ・啓発グッズ(クリアファイル)・リーフレット配布
令和4年6月4日(土) 午前10時から午後4時まで	イオンモール日根野(泉佐野市)	・事業所の作品展示 ・もずやんとの撮影会 ・相談ブース ・ミニ講義・脳トレ体験 ・啓発グッズ(うちわ)配布

2. 効果検証

次頁以降に記載。

3. 今後の取組み

- 高次脳機能障がいの症状や相談窓口を周知する啓発用ポスター等の作製・配布を予定。
  (配布予定先:医療機関・市区町村・保健所・基幹相談支援センター・委託事業所等)
- 普及啓発を行うため、府民や支援者等が、いつでも気軽に知識を習得することができるような普及啓発用ツールを作成の上、公開を目指す。検討会を立ち上げ、意見を聞きながら作成する。
  (構成メンバー案:医師、セラピスト、支援者、当事者・家族)

議題4　高次脳機能障がいの普及啓発の方向性について

資料4
別紙

- 普及啓発イベントについて、以下のとおり効果検証を行った。

1. 普及啓発イベントの目的、内容及び狙い

(1)「高次脳機能障がい」の認知向上

- 高次脳機能障がいは、俗に「見えない障がい」ともいわれ、府民の認知度は高いとは言えない状況。
- しかし、高次脳機能障がいは誰の身にも、明日にも起こりうる障がい。

  広く府民に普及啓発を図ることで、自分の身に起きた時の対応等について知ることができる。

  →この障がいを府民に広く普及させるために、啓発イベントを実施している。
- なお、広い意味で「認知向上」という言葉には、

  ①「高次脳機能障がい」自体を知らない、又は聞いたことがない人に知ってもらう

  ②「高次脳機能障がい」自体を知っている、又は聞いたことはあるが、深くは知らない、聞いた事しかない方に改めて知ってもらうという2つの側面があるが、本件普及啓発イベントは、その両方を企図して実施。

- **(2)府内各地の高次脳機能障がいを有する当事者・家族へのアウトリーチ**
- 大阪府として、相談窓口を設置のうえ、高次脳機能障がいに関する相談対応等行っているが、遠方のため来所しにくい、当事者の病識欠如の症状により相談につながりにくい、専門の相談窓口は敷居が高いと感じておられる方が一定いる。

  →イベントスペース内に相談ブースを設置することで、相談へのハードルを下げ支援に繋がってない方への働きかけを行うことも、普及啓発イベントの目的。

議題4　高次脳機能障がいの普及啓発の方向性について

資料4
別紙

2. 普及啓発イベントの成果（令和4年6月4日実施分）①

アンケート結果（回答者：ミニ講義・脳トレ体験の参加者　回答者数：20名）

設問1「高次脳機能障がいという障がいがあることをご存知でしたか？」

①知っていた　②知らなかった　→　**①15名　②5名**

設問2「このイベントに参加し、高次脳機能障がいについて知ることができましたか？」

①知ることができた　②よくわからない

→**①19名　②0名（1名記載なし）**

設問3「イベントの中で良かったものはどれですか？」（複数回答可）

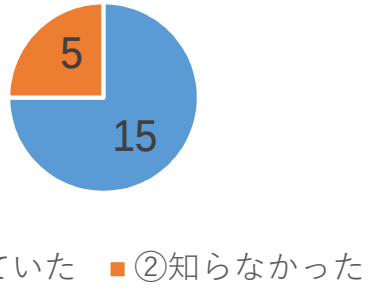
①作品展示　②相談コーナー　③ミニ講座　④脳トレ体験

⑤もずやん撮影会

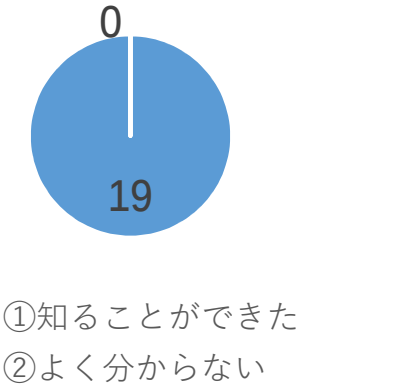
→**①9名　②5名　③12名　④16名　⑤5名**

設問4「このイベントはどうでしたか？ご意見・ご感想を自由にお書きください。」→自由記述。記入された意見は次頁のとおり。

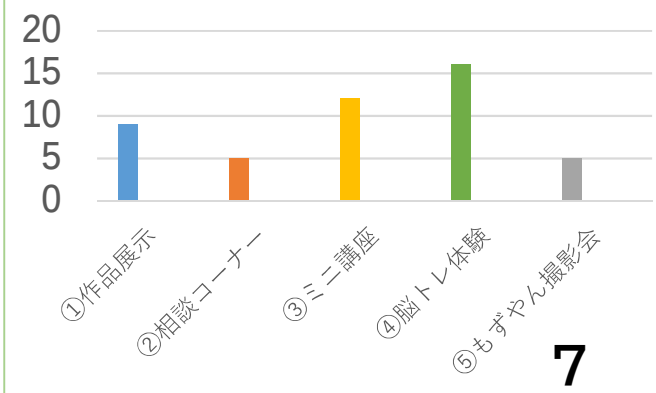
設問 1



設問 2



設問 3



議題4　高次脳機能障がいの普及啓発の方向性について

資料4
別紙

2. 普及啓発イベントの成果（令和4年6月4日実施分）②

設問4「このイベントはどうでしたか？ご意見・ご感想を自由にお書きください。」
→頂いた意見は下記のとおり。

- 改めて知ることが出来ました。
- 実際にあった体験談等、具体的な話も読むなり聞くなりしてみたい。
- 病院を紹介してもらえてよかった。
- 前から知っていました。一度来たかったので、やっと念願かないました。オープンな雰囲気が良いです。大阪の北部でも開催お願いします。
- どのくらいの人が高次脳機能障がいになるのか教えてもらえたら、より身近に思えるかもと感じました。
- いつ障がいが起きてもおかしくないなと思いました。
- すごくためになりました。
- 少しでも多くの人が高次脳について知っていただけること、支援の輪が拡がることを願います。
- くわしく知れてよかったです。
- 具体例などをあげていて分かりやすかった。
- 少しスライドが見えにくかったです。
- 高次脳機能障がい、自分がなるかもしれないので　知れてよかったです

その他　啓発グッズ（うちわ）配布部数：700部　お菓子配布部数：150部　相談件数：2件

議題4　高次脳機能障がいの普及啓発の方向性について

資料4
別紙

3. 普及啓発イベントの効果分析

- アンケート結果を踏まえると、普及啓発イベント自体は概ね好評。

- 普及啓発イベントの目的は、先述のとおり

（1）「高次脳機能障がい」の認知向上

①「高次脳機能障がい」自体を知らない、又は聞いたことが無い人に知ってもらう

②「高次脳機能障がい」自体知っている、又は聞いたことはあるが、深くは知らない、聞いた事しかない方に改めて知ってもらう

（2）府内各地の高次脳機能障がいを有する当事者・家族へのアウトリーチ

- 設問1の回答結果によると、元々高次脳機能障がいを知らなかった人が25％で、設問2の回答結果と、啓発グッズ等の配布成果も踏まえると、上記（1）①については一定果たせている。
- 同じく設問1の回答結果によると、75％が高次脳機能障がいを元々知っていた人であったことから、設問2の回答結果も踏まえて、「高次脳機能障がいを元々知っていた人」が高次脳機能障がいについて改めて知るきっかけになったとして、上記（1）②の目的も果たせている。
- 相談ブースに当日2件の相談があったことから、少なくとも上記（2）の目的は果たせているとは言えるが、その件数を踏まえると、3つの目的の中では特に課題や改善の余地がある。（前回は10件の相談があったことから周知不足の影響も考えられる）

議題4　高次脳機能障がいの普及啓発の方向性について

資料4
別紙

4. 効果分析を踏まえた今後の方向性

- 効果分析を踏まえ、普及啓発イベントは今後も引き続き実施することとする。
- 次回以降の内容について、

  (1)「高次脳機能障がい」の認知向上

  ①「高次脳機能障がい」自体を知らない、又は聞いたことが無い人に知ってもらう

  ②「高次脳機能障がい」自体知っている、又は聞いたことはあるが、深くは知らない、聞いた事しかない方に改めて知ってもらう

  (2)府内各地の高次脳機能障がいを有する当事者・家族へのアウトリーチ

  上記3つについて、引き続き実施していく必要があることから、今回のイベント内容をベースとし、ブラッシュアップを図る。
- 加えて上記(2)に関しての改善策として、次回実施の折は、普及啓発イベントに相談ブースがある旨の広報周知をより徹底するとともに、今後大阪府の相談窓口周知も兼ねた普及啓発のための取組も行っていく。

  後段の取組みとして、今後高次脳機能障がいの症状や相談窓口を周知する啓発用ポスター等の作製・配布を検討。

  また、来年度以降普及啓発イベント実施の際は、ミニ講義等に限らず、もずやん撮影会等他のタイミングで来られた方へのアンケート配布や、普及啓発イベントの場以外でも、インターネットを利用した調査等を利用し、高次脳機能障がいの認知度を定点観測していくことを検討している。